

図書館通信 — 38 —

1976. 11

私の文献資料入手方法

南 利明

自然科学系の研究者は、研究テーマに即した実験施設や設備を準備することに多くの労力と時間を費されることと思いますが、我々人文・社会科学系の研究者（因みに私の専門は法哲学です）にとっては、テーマに関係した文献資料をいかにして収集するかがきわめて重要な、場合によっては研究の結果自体を左右しかねないような事柄となってきます。しかも通常必要となる文献資料は、学問の性質上最新のそれに限られず、数十年、場合によれば数百年も以前の古いものであることがほとんどです。むろんこれは研究領域やテーマによって多少の相異がありますが、たとえば、1945年以降の西ドイツを中心として再生した「自然法思想」という比較的新らしい対象をテーマとしている私の場合についていっても、必要な文献を国の内外を問わず書店を通して直接入手することは今日では一部を除いてほとんど期待できず、まして雑誌に至ってはまったく不可能といってもよいぐらいです。

むろん大学の図書館の蔵書はそうしたときのために存在しているのだということでしょうが、しかしおそらく自己の所属している大学の図書館ですべての必要がみたされるというめぐまれた環境におかれている研究者は少ないのではないのでしょうか。そのため文献資料の収集にまつわる苦労話や自慢話を私なども先輩諸氏からいろいろ聞いてきましたが、私はずっと不精をきめこんで図書館のサービスを頼りにしているのが現状です。現在、大学図書館相互の間で、文献複写や書物の相互貸借といったサービス業務が行なわれていることを御存知の方も多いでしょうが、私の場合必要な文献の大部分をこうした方法を通して入手しています。この方法は、図書館の係の人達の手間が大変である — たとえば極端な場合わずか一頁の

資料のために、所蔵大学の調査から始まってコピーの到着に至るまで何人も人の手数がかかるわけですから — という欠点がありますが、ほぼ確実に、そして利用者からすれば比較的容易に文献を入手するという点からみれば非常にありがたい制度だといえましょう。ただ私の場合には、研究テーマと関係して、1945年から1950年代にかけて発表された文献が重要となってきているのですが、ちょうどこの時期、戦後の混乱期にあたっているということもあって、外国の文献については国内のいずれの図書館にも所蔵されていないことがしばしばあり、そのため是非とも必要な文献をみすみすあきらめざるをえないということもあったのですが、最近になって、雑誌論文については国外の図書館への複写依頼による入手が可能となりましたので、そうした悩みもほとんど解消されたといえます。著作権との関係でコピーが不可能な単行本についても、ごく最近一部の外国図書館の好意によって相互貸借が実現されたケースがあり、今後こうしたことが恒常的に行なわれるようになりますと、文献資料の収集はほぼ完全なものになると思われます。

このようにして図書館の参考係や運用係の方々の努力のおかげで、静岡にいながらにして国内のみならず、国外の図書館の文献を利用することができるようになったことで、これまでのように資料が入手できず研究計画に支障が出るということはほとんどなくなったといえます。今後残された問題は、複写された資料をいかに要領よく利用に好都合なように整理するかということですが、どなたかこの種の資料整理に関するノウハウをおもちの方公開していただけないでしょうか。

(教養部・法哲学)

統計年報と 「統計コーナー」

安藤 実

宮本百合子の評論に「現代史の蝶つがい」というのがある。1948年のアメリカ大統領選挙のとき、ギャラップをはじめアメリカの世論調査がみな失敗を演じたことを取りあげたものである。

科学性と確実性をうたわれたギャラップの調査も、民衆の意志という「現代史の蝶つがい」を正確に反映しない方法が取られるときには、看板倒れにならざるを得ないことをていねいに論評している。

おもしろいのは、このなかでアメリカの世論統計との対比の意味もあって、日本の統計にふれた部分があることである。「大体、これまでの日本には、統計さえろくなのがなかった。とくに戦争中は各官庁が全く自身の統計を失った。民間の経済雑誌に、国際間の経済統計、生産指数などの発表されることを禁じた日本の軍部は、そうして世界の現実を人々の目からかくしたと同時に、非合理的な戦争によって熱病のように混乱、高騰、崩壊する日本国内生産と経済事情を——— 人民生活の全面的な破壊の過程を人々の目からかくした。

1946年のはじめに、仕事の必要からいくとおりかの統計が必要となって、内務省、厚生省、文部省その他を求めさがしたが、それらのすべてのところで与えられた答えは一つだった。なにしろ戦争中は、統計がとられなかったもので、と。もちろん、戦争の間にとられた統計はあったのだ。さもなくして、どうしてすべての若い女を勤労働員し、すべての学徒の、文科学生だけを前線にかり出すことが出来たろう。献金、献金、供出、供出と強要できたろう。8月15日が来たとき、日本中に灰色の煙をたててそれらの血ぬられた統計は焼却された。」（『宮本百合子選集』第11巻）

この不幸な時代から、戦後日本の統計制度がどのように再建されたか、その詳細をここで展開するつもりはないが、少なくともアメリカ占領軍からの要求がそのきっかけとなったことは、当事者の大内兵衛氏の回想（「戦後統計事始め」『大内兵衛著作集』第12巻）からもあきらかである。

これらの事実から、統計が単なる数字の羅列でなく、時代の要求を反映した一定の政治性を内包していること、したがって統計を利用するばあい

に、その統計がどういう目的で、どのようにして作成されたものであるか、について明確に知っていなければならないことなどが注意されるのである。

○ ○ ○

昨年度に人文学部の経済学関係の教官が中心になって、統計年報類を重点的に購入した。400万円ほどの金額である。これらのものと図書館所蔵の統計年報類をあわせてリストをつくってみた。160種くらいになった。このうち図書館で継続して備えていたものは35種にすぎない。

リストにしてみても、あらためて気付くのは、日本の主要統計で、戦前から一貫しているものが極めて少ないこと、戦後にしても多くの分野の経済統計が出そろうのは1950年代以降であること、そしてわが静岡大学図書館のはあい、その50年代以降の分にも、多くの欠本の目立つこと等々である。

統計の利用の必要は、経済学を学ぶ者だけのことではない。統計が利用しやすいかたちで整備されていることは、すべての学問分野の人々にとってありがたいはずである。そこで一つの希望をのべておきたい。参考図書室の一角に「統計コーナー」を設けてほしい。各分野の基本統計を、いつでも自由に使える、そういう場所をつくってほしい。（人文学部・財政学）

■教職員著作寄贈図書（本館）

小笠原 英三郎（教育学部）

飛翔 一小笠原英三郎退官記念 詩とエッセイ集— 小笠原英三郎教授退官記念会編

（編者 昭和51）

大畑 専（法経短期大学部）

詩集 遠い存在

（岩礁社 昭和49）

伊藤 正義（教育学部）

John Gower, The Medieval Poet

（篠崎書林 昭和51）

桐生 司一郎（農学部）

ミカン農業の課題と対策 —生産者の意向を基礎として—

（静岡大学農学部農業経営学研究室 昭和49）

草間 慶一（理学部）

静岡県の自然 四季の昆虫 草間慶一等著

（静岡新聞社 昭和51）

杉山 忠平（教育学部）

わたしのマンチェスター

（未来社 昭和51）

「静雪文庫」について

昨年暮、富士市在住の村上竜平氏より、俳諧短冊、歌仙、選句帳等の寄託の申出があり、12月24日寄託契約が結ばれて正式に当館に収蔵されることになった。資料の多くは竜平氏の曾祖父、時雨窓九世村上静雄以来の伝来のものに加えて竜平氏等の収集したものであり、短冊約2,000点、その他約300点にのぼっている。短冊のみをまとめたコレクションとして所蔵している図書館は国立国会図書館、早稲田大学図書館など比較的例は少なく、それだけに、めずらしくかつ貴重な資料である。当館の特殊資料としては、明治期の新聞を集めた「河合コレクション」など数少ないので、この「静雪文庫」のことを記録しておくこととする。

村上静雄は、弘化元年(1844)5月20日庵原郡吉原に生まれ、名を雄作といた。清水市仲町にて茶商を営むかたわら、俳諧を雪中庵七世村井鳳州¹に学び、明治29年12月前雪中庵原田梅年²、齊藤雀志³に推されて九世時雨窓を嗣号し、昭和3年6月28日、85才で没した。初め素雪庵、のち静雪庵、隠居して雪屋人又は未来坊と号し、別号を空鴻といた。門下千余人だったといわれ、清水市鉄舟寺の「こころ此処にある時花の月夜かな」の句碑は静雄存命中に社中が建立したものである。

芭蕉の門人服部嵐雪⁴の系統は雪門とよばれ、俳諧史上重要な地位を占めている。嵐雪は雪中庵と号し、その高弟大島蓼太⁵(雪中庵三世)は、宝暦14年(1764)、門下の雪丸園耳得より寄進を受けた駿府研屋町の庵を時雨窓と名づけ、江戸の山村月巢⁶を庵守として住ませ、この時雨窓を俳句道場として駿府俳諧の指導普及にあたらせた。時雨窓は最初は蓼太が駿府に設けた草庵の名であったが、後に俳諧の一系統の名称となり、初代山村月巢のあと、二世小林文母⁷、三世松井管雅⁸、四世高津詩三⁹、五世磯部雀叟¹⁰、六世永田琢堂¹¹、七世新見素粒¹²、八世土屋葛哉¹³、九世村上静雄、十世長島雪雄¹⁴、十一世福川醉雪¹⁵、十二世松下静人¹⁶と続き、今清水市在住の平井湛水氏が十八世を受け継いでいるという。静雪文庫にはこれら殆んど全ての人の短冊が収められている。

また、雪中庵服部嵐雪の系統でも、二世桜井吏登¹⁷を除けば、初代嵐雪はもとより、三世蓼太以下、大島完来¹⁸、大島対山¹⁹、山口稚蔭²⁰、村井鳳州、原田梅年、齊藤雀志、杉浦宇貫²¹、清水東

枝²²、増田竜雨²³、山田二松²⁴、そして十四世の雪中庵双美²⁵にいたるまでの全ての人の短冊が揃っている。

駿府俳人以外では、宝井其角²⁶、馬場存義²⁷、三浦栲良²⁸、釈蝶夢²⁹、井上土郎³⁰、小林一茶、五味加都里³¹、井上重厚³²、岩波午心³³、鶴田卓池³⁴など、天明・文化文政時代の方が比較的多く、明治以降では関為山³⁵、角田竹冷³⁶、巖谷小波³⁷、岡野知十³⁸など、総数700人ともいわれる人々の短冊の一大コレクションを形成していて、俳諧研究を志す人の興味をそそるに充分である。作者の居住地は駿府を中心とするとはいえ、北は北海道、南は鹿児島に至るまで全国に渡っている。

村上竜平氏により解説の済んだこれら資料の全体の約4割の中には、未刊の句や、従前の誤りなどが発見されており、残り6割の解明も今後の研究課題として残されている。しかし、資料の特殊性のため、現在取扱い作業は遅々として進まず、早急に冊子体目録にまとめあげることが期待されている。

なお、昭和51年4月16日至22日まで、富士市内百貨店「ペピー」において「静雄没後五十年記念『古俳人遺墨展』」が開かれ、このコレクションの中から約200点が出品され、好評を博した。

<註>

1. 村井鳳州 通称圭蔵。奥州の人。江戸深川六間堀に居住した。明治7(1874)年没。
2. 原田梅年 江戸の人。深川に住み足袋商。雪門勢力挽回のため芭蕉堂を新築した。雪門と江戸座の対立解消に功あり。
3. 齊藤雀志 三井銀行に勤め、古俳書の蔵書家。後その蔵書は酒竹の入手するところとなり、現在東大で所蔵。明治41年没、58才。
4. 服部嵐雪 淡路の人。江戸に出て井上相模守の家士となる。其角と共に芭蕉門下の両翼。宝永4(1707)年没、54才。
5. 大島蓼太 信州伊那の人。江戸に出て幕府御用の縫物師、天明7(1787)年没、70才。音羽山清水寺の月巢句碑は蓼太の書。
6. 山村月巢 出羽国寒河江の人。医業を捨て俳諧で世に出た。駿遠に俳諧を広めた東海雪門の俳関。天明5(1785)年没。清水寺に句碑あり。
7. 小林文母 江戸の人。駿河滞在の送別記念に「望の花」を刊。寛政10(1798)年時雨窓に没す。76才。
8. 松井管雅 駿河国不二根比奈村の人。江戸に出て俳諧を学ぶ。文政元(1818)年病没。清水寺に句碑あり。
9. 高津詩三 駿河国久能の榊原越中守の与力という。文政11(1828)年没。清水寺に句碑あり。
10. 磯部雀叟 徳川の直臣駿府与力磯部氏の隠居という。文政12(1829)年没。64才。

11. 永田琢堂 安部町般若院の修験者という。明治12年没。64才。
12. 新見素粒 旧幕臣で江戸より静岡市に移住。明治19年没。78才。
13. 土屋葛哉 素粒の甥。明治19年時雨窓を嗣号、明治22年没。
14. 長嶋雪雄 清水市松井町に居住。大正5—13年まで十世時雨窓を嗣号。昭和10年没、76才。
15. 福川醉雪 遠州森町の人。清水で常盤ホテルを経営。大正13年時雨窓を継承。昭和8年東京に隠居の後13年没。
16. 松下静人 静岡市安部町に居住し、静岡俳壇を創立。
17. 桜井吏登 江戸の人。我に句なしといつて、かつて著した「卯の花垣」「卯の花衣」を門人に焼き捨てさせた。今日残っているのはわずかに18句のみという。宝暦5(1755)年没、75才。
18. 大島完来 伊勢津の藩士で能書家。丸子の芭蕉の句碑「梅若菜 丸子の宿の ところ汁」は完来の書。
19. 大島対山 江戸の人。天保14(1843)年没、58才。
20. 山口権盛 駿河の人。昭和7年没。
21. 杉浦宇貫 大正7年没、55才。
22. 清水東枝 東京市麩町区に居住。昭和12年頃沼津にて没すという。
23. 増田竜雨 京都祇園の人。雪中庵中、蓼太、完来に次ぐ巨匠という。昭和9年没、61才。
24. 山田二松 加賀の人。宇貫の門。昭和27年越後に死す、87才。
25. 雪中庵双見 ?
26. 宝井其角 近江の人。蕉門十哲の一。芭蕉の没後江戸座を開いた。宝永4(1707)年没。
27. 馬場存義 江戸の人。雨もりのため家の中で傘さして俳諧をしたという。天明2(1782)年没、81才。
28. 三浦樽良 志摩の鳥羽の人。中興俳諧の雄。安永9(1780)年没、52才。
29. 釈蝶夢 京都の人。芭蕉の人格を尊敬し一生を芭蕉の頭彰にささげた。寛政7(1795)年没、64才。
30. 井上士郎 尾張の人。医家。大人の風格をもった寛政の三大家。文化9(1812)年没、71才。
31. 五味加都里 甲斐の人。文化14(1817)年没、75才。
32. 井上重厚 京都の人。蝶夢の門。洛西嵯峨野に落柿舎を再し、又義仲寺に入って芭蕉百回忌の法要を行った。享和4(1804)年没、64才。
33. 岩波牛心 相模小田原の人。蓼太に学び、後完来に従った。文化14(1817)年没。
34. 鶴田卓池 三河岡崎の人。尾張三河の俳壇で活躍した。弘化3(1846)年没、79才。
35. 関為山 江戸の人。梅室の門。明治11年没、75才。
36. 角田竹冷 安政3(1856)年沼津の生れ。東京市議会議員、衆議院議員など歴任、古俳書の収集家として有名。大正8年死して竹冷文庫を遺す。
37. 巖谷小波 東京生まれ。創立当初の秋声会に参加。児童文学作家。昭和8年没、66才。
38. 岡野知十 万延元年(1860)北海道生まれ。古俳書の収集家。昭和7年没、73才。

■附属図書館委員会報告(昭和51年度)

(第1回)とき: 51・5・7 ところ: 本部

- (1) 文献複写料金の改正について、館長から改正趣旨の説明があり、異議なく承認された。
- (2) 昭和51年度指定図書実施方針について、館長より発言があり、種々検討の結果、本年度については、昨年通り実施することを了承した。
- (3) 昭和51年度図書館通信委員について、その人選を教育・理学部に依頼した。
- (4) 館長より、昭和51年度附属図書館維持費について、前年度予算額と本年度に見込まれる予算の伸び率の枠内で予算案の作成を取り進めたいとの発言があった。

(第2回)とき: 51・5・31 ところ: 本部

- 館長より、昭和51年度附属図書館維持費予算(案)について、審議願いたい旨発言があり、種々審議の結果、次回の委員会再度審議することとした。

(第3回)とき: 51・6・11 ところ: 本部

- 昭和51年度附属図書館維持費について、種々審議の結果、昭和51年度予算額を了承し、維持費検討委員会にはかることとした。

お知らせ (本館)

- (1) 冬期休暇中の長期図書貸出について
貸出冊数: 4冊まで(指定図書は2冊まで)
貸出日: 12月8日(水)～10日(金)
申込期間: 12月1日(水)まで
申込要領: 窓口③番にある申込用紙を用い、必ず指導教官又はこれに代るべき教官の捺印を受けてから申込んで下さい。
返却期間: 1月12日(水)～14日(金)
※なお、長期貸出準備のため、12月1日(水)～12月7日(火)の間、通常の貸出を停止します。

(2) 休館 23 木

12月27日(月)～1月4日(火)

- (3) 後期試験のため、開館時間を延長します。
期間: 1月17日(月)～2月25日(金)
時間: 月～金 17:00～19:30
土 12:00～16:00